



いのちを考える～小児がんを通じて～

14日(火)に講演会「いのちを考える～小児がんを通じて～」を開催しました。ちがい、小児がん、自分に何ができるか、など貴重なお話をたくさん聞くことができました。ご参加いただいた保護者の皆様、ご協力いただきありがとうございました。内容と児童感想の一部を紹介します。



【講演内容】

○ひとには ふたつのちがい がある



どりよくしても かえられない (持って生まれたもの) →→ ‘遺伝’
 どりよくしたら かえられる (かけっこ、けいさん、うた など)

いでん 遺伝によって決められた
‘ちがい’は
かえることができない

☆ちがいをわかってあげる人になろう!

○「チャーリーブラウンなぜなんだい?～ともだちがおもい病気になったとき～」

元気なわたしたち → 一生けんめいでなくても 生きていける

☆一生けんめいでなくても生きていけることは幸せ

おもい病気になった人 → 一生けんめいに 生きなければならない
 障害をもった人



☆そうぞうするために
‘本をたくさんよもう’

わたしたちに何ができる?? → ☆ ‘自分にできること’ を考えてしてあげよう

できることは どうやって見つける?? → 相手のしてほしいこと、つらいことを考え、想像する

【児童の感想】



わたしはこまっている人を見たら、おうんしたいと思いました。がんになった人に、がんばってくださいとつたえてください。

心に残ったことは、いでんは変えられないことです。勉強や50m走は ど力で変えられるのに、自分のことは変えられないと聞いてびっくりしました。

町の中や学校で歩くのがふじゆうな人がいたら、やさしく助けてあげたいです。

病気を治してかみがない人がいても、はげましてあげたり、自分にできる手伝いをするのが大切だと思いました。

たくさんの人の考えを見たり聞いたりするために、ノンフィクションの本を読んだり、話し合いをしたりしたいなと思いました。

【保護者の感想】

知ることで何か相手にできることがある、と気付きました。これからの人生に役立てたいと思います。

子供達にも優しい心、他の人を思う事の大切さを学ぶ良い機会だったと思います。色々な個性を持った人が楽しく生きていける社会になったらよいなと思います。